

## 1 来 歴

岡山県農林水産総合センター森林研究所では、1981年、貿易商社を通じて、中国からチュウゴクグリの実を入手し、当研究所内で育成した。この中から、有望な3個体を選抜し（阿部2007）、2007年2月9日に種苗法に基づく品種登録の出願を行った。翌2008年3月13日、正式に品種名「岡山1号」、「岡山2号」及び「岡山3号」として品種登録された（西山2012、西山2017b）。2018年度現在、上記3品種のうち、「岡山1号」と「岡山3号」の2品種を中心に、「岡山甘栗」\*と称し、県北部勝英地域において産地化を進めているところである。

なお、日本国内におけるチュウゴクグリの産地は、現在、岡山県新見市哲西地域を中心に、哲西栗\*（品種名：傍士360号\*）が一部、栽培されているのみである（今井2014）。

## 2 栽培

### （1）適地の選定

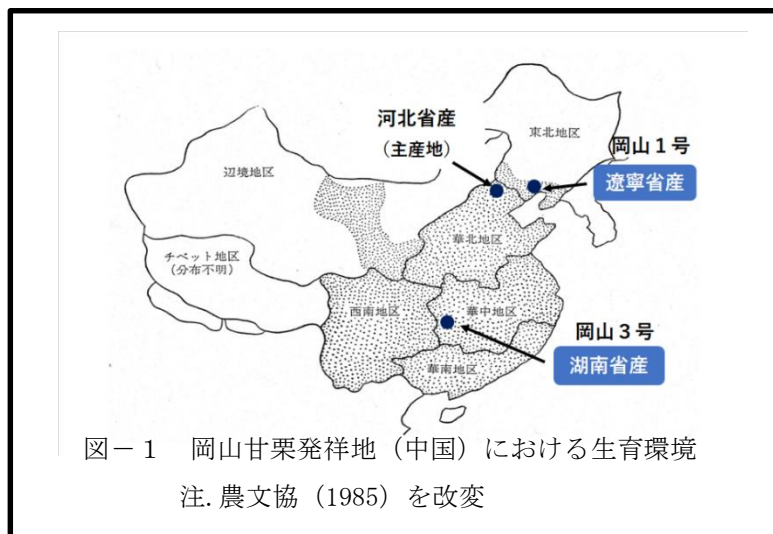
#### 1) 気象条件

国内におけるニホングリの栽培範囲は、現在、東北～九州南部までであり、クリ属自体の適応範囲は広いと考えられる。

ニホングリ産地の年平均気温は10～16℃、年間降水量1,000～2,600mm程度となっているのに対し、チュウゴクグリ\*の最大産地である中国・華北地区（図-1）の年平均気温は8～12℃、華中地区は同15～17℃である（猪崎1978）。

なお、「岡山1号」は、河北省\*よりさらに北部に位置する東北地区の遼寧省産であり、同省（潘陽市）の年平均気温は8.5℃、年降水量は690.3mmとなっている（遼寧省潘陽市HP）。

一方、「岡山3号」は華中地区の湖南省産であるが、同省（長沙市）の年平均気温は17.5℃、年降水量は1,468.8mmとなっている（湖南省長沙市HP）。以上のように、岡山1、3号では、その生育環境（気温、年降水量）は異なる。



2017年3月末時点で、岡山1、3号ともに、一部ではあるが、県北部（勝英地域）で成園化が実現している（第16章 優良園地の紹介 参照）。

一方、県南部及び県中部では、植栽も含め、成園化はこれからである。

今後、岡山県南部～中部における植栽データ及び気象データ（表-1、図-2）についても、収集していく必要がある。

表-1 岡山県内主要地点の気象

位置別	地域別	地点	年平均降水量 (mm)	年平均気温 (°C)
県北部	勝英	奈義町	1,510.3	13.2
		美作市（今岡）	1,646.9	13.0
	津山	津山市	1,415.8	13.7
		真庭市（上長田）	2,010.9	11.2
	真庭	真庭市（久世）	1,432.0	13.5
		新見市（千屋）	1,726.0	10.7
新見	新見市	1,354.3	12.1	
	県中部	高梁市	1,200.9	14.2
県南部	岡山	岡山市	1,105.9	16.2
		玉野市	1,003.9	15.9
	東備	和気町	1,174.4	13.9
		瀬戸内市（虫明）	1,086.1	14.8
	倉敷	倉敷市	1,028.6	15.5
	井笠	笠岡市	1,026.1	15.9
(参考)				
中国	東北	遼寧省（瀋陽市）	690.3	8.5
	華北	河北省（石家荘市）	517.1	13.9
	華中	湖南省（長沙市）	1,468.8	17.5

注1. 岡山県内の気象庁観測地点データ（1981～2010年）の平均値

2. 中国3地点の気象データ（1971～2000年）は当該省各市データによる

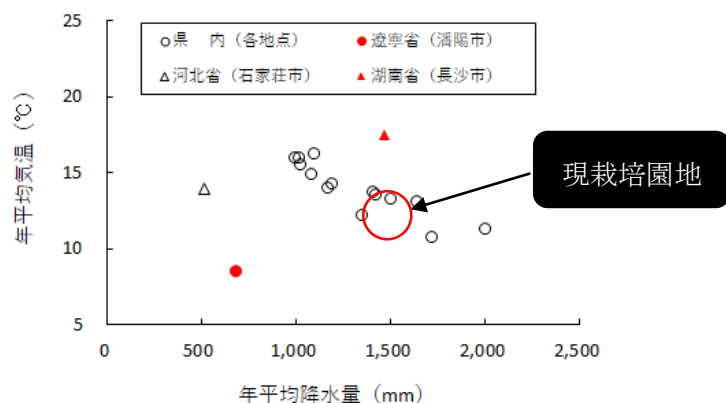


図-2 岡山県内及び中国3都市の年降水量と年平均気温の関係

## 2) 土壌条件

- 直根性（樹種）であることから、植栽適地は、有効土層\*（クリの根が侵入できる深さ）が60cm以上であることが望ましい（図-3 参照）。
- 排水が良好であり、有機質に富む弱酸性土壌がよい。排水不良園や、有効土層の浅い粘土質土壌での栽培は避ける。
- 黒色土壌では、栽培は可能であるが、生育はやや劣る。
- 排水、あるいは、機械化（下草管理、病虫害防除）の面から、傾斜が15度以下の緩傾斜地での栽培が理想的である。
- 水田跡地へ植栽する場合、排水対策が必須であるため、高畝\*造成を行う。畝高80cm以上が望ましいが、最低でも60cm以上の高畝を確保する（図-4 参照）。
- 植栽候補地の適地を判定する場合、あらかじめ試掘し、有効土層厚を調査し、その判断材料とする。
- 植栽地の良否が将来の収穫を大きく左右する（図-5 参照）。

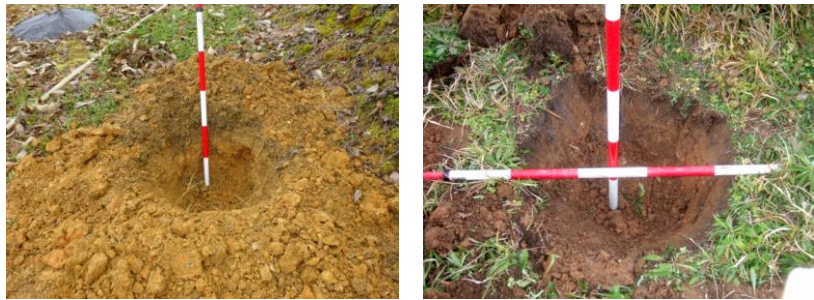


図-3 植栽適地（左）と不適地（右）の一例  
注. 左側：有効土層厚 60cm 右側：同 30cm

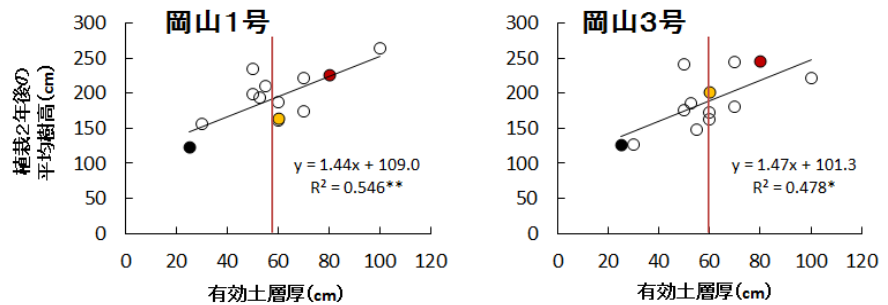


図-4 有効土層厚と樹高成長の関係

- 凡例
- |   |      |           |
|---|------|-----------|
| { | 水田跡地 | ●: 盛土30cm |
|   | 高畝造成 | ●: 60cm   |
|   | 高畝造成 | ●: 80cm   |



図-5 植栽適地の一例  
(左側：植栽時 右側：植栽5年目)

### 3 品種特性

#### (1) 果実特性

- ・岡山1号の果実サイズは、在来品種とチュウゴクグリ（輸入：天津甘栗\*）との中間である（図-6 参照）。
- ・岡山3号の果実サイズは、チュウゴクグリと同サイズか、やや小さい（表-2 参照）。
- ・両品種ともに、座\*がクリの横幅に比べ小さい。
- ・両品種ともに、果頂部\*にもう毛（じ）\*がある（図-7 参照）。
- ・渋皮離れが良い（図-8 参照）。
- ・両品種ともに、果肉の色（黄色）が濃い。
- ・両品種ともに、甘みが強い。
- ・両品種ともに、果実被害（虫害）が極めて少ない。



図-6 在来品種と岡山甘栗の大きさの比較